＜社会貢献活動に取り組む労働組合 ②＞

京都府電力関連産業労働組合総連合（京都府電力総連）

関西電力労働組合京都地区本部執行委員長

岡本義則

はじめに

今回は、現在ネパールでバイオガスプラント建設に取り組んでおられる、京都府電力総連関西電力労働組合京都地区本部にお邪魔して、岡本義則執行委員長にお話をお聞きしました。その結果、岡本義則委員長自らが、これまで取り組んできた事業についての紹介と報告を、原稿にしていただくことができました。

今日、労働組合にとって、社会的な格差の拡大は重要な課題で、国際的な格差問題にも目を向け、貧困の解消に積極的に取り組んでおられる労働組合が多くあります。

自治労においても、結成 40 周年を記念し、国際協力事業として「アジア子どもの家」の取り組みを、1994 年 2 月の中央委員会で決定しました。それから 1 年間の調査・準備活動を経て、対象国をインドシナ 3 国（ベトナム・ラオス・カンボジア）に定め、95 年から具体的な活動をはじめました。

この「子どもの家」の取り組みは、それぞれの国において教育モデルとして注目を集めるようになり、それらの政府の教育に対する見方も徐々に変わり、助成金が出るようになったところも出てきました。その結果、自治労結成 40 周年の記念事業としてスタートした「アジア子どもの家」事業は、10 年を経て、3 カ国でレベルの違いはあれ、目に見える成果をあげてきました。しかし、まだまだ「子どもの家」の円滑な運営が確立されたとは言い難く、一過性の記念事業に終わらせず、今後も継続的に支援を続けようと、2004 年 10 月にエファジャパンを設立し、今日まで活動を継続させています。

京都では、初回訪問団の有志で作られた国際ボランティア組織の「ボーン・ポォンの会」を 2001 年 8 月 6 日に設立し、カンボジアの「子どもの家」支援を行ってきました。
そして、今年の 2 月 27 日～3 月 1 日には、高橋直樹自治労京都府本部執行委員長を団長に、「ボーン・ポォンの会」の協力を得て、カンボジアスタディツアーを実施しました。9 人のメンバーは、プノンペン市内にある国立幼稚園教員養成学校（PTTC）を訪問し、訓練生用のパソコンと図書を贈呈してきたところです。（本誌 23 ページ参照）

世界では、貧困にあえぐ子どもたちがたくさんいます。今後、労働組合がどのような国際貢献活動ができるのか、関電労組の取り組みは、一つのあり方を私たちに教えてくれているものと思います。

（木村幹雄・京都自治総研理事長）

「かんでん NGO ネットワークきょうと」の活動

京都府電力総連は、エネルギー産業に携わる立場として、地球環境保全活動を通じた傘下各単組組合員のボランティア意識の醸成と、社会の一員としての視野を広げることを目的に、国内外における幅広いボランティア活動に取り組んでおり、関西電力労働組合をはじめ、京都府内に所在する電力関連産業に集う各単組が結集し、自主的なボランティア組織として設置された「かんでん NGO ネットワークきょうと」が主体となって 1998 年以降、活動を展開しています。

「国際ボランティア活動」の取り組み

「かんでん NGO ネットワークきょうと」は、その発足に合わせて、アジア諸国を中心に活動を展開する国際 NGO 団体「アジア協会アジア友の会」との連携を図りながら、ボランティア活動に取り組んでいます。

アジア諸国では、国々の実情も異なり、支援が必要とされているさまざまな活動がありますが、ここ数年は、なかでもとくに貧困を極め、支援が急務とされている「ネパール連邦民主共和国」（旧ネパール王国）における活動が展開されています。

今回は、その取り組みの一例を紹介します。

植林活動

資源に乏しいネパール国内の山村地帯では、各家庭内における炊事用の熱源として一般的に「薪」が使用されていますが、家庭用火力燃料としての利用率は、国内全体の 7 割を占めています。

そのため、樹木伐採が進行し、森林破壊が大きな問題として深刻化しています。

「かんでんの森」植林活動

植林作業風景

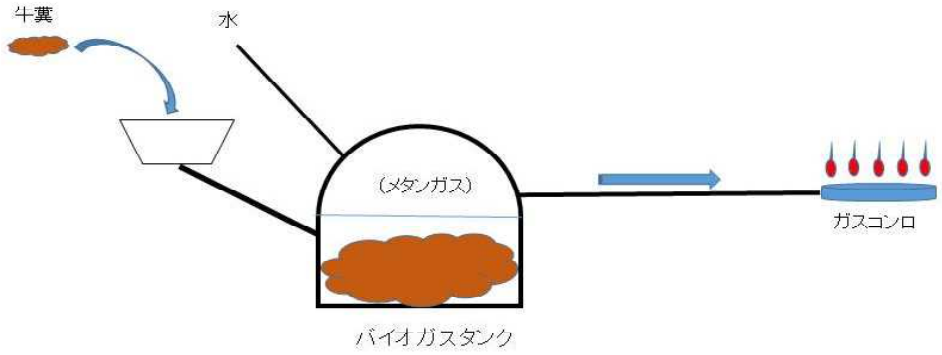
今、ネパール国内においては、森林保全のための植林事業が、政府や各森林組合にとって大変重要な取り組みとなっていますが、植林の知識や技術に乏しい現地の人びとの力だけでは、そうした活動が長続きせず、森林再生は困難な実態にあります。

「かんでん NGO ネットワークきょうと」による植林活動は、現地に暮らす人たちにとって、森林保護の大切さや植林技術を学ぶための、大変貴重な取り組みとして歓迎され、高い評価を受けています。

バイオガスプラント建設

ネパールの各家庭では、炊事は主として主婦（女性）の役割となっていますが、熱源として

バイオガスプラントの概要



バイオガスタンク用の穴掘削作業

バイオガスタンクの建設作業状況

使用する薪から出る煙は、人体への健康被害を与え、死亡に至るケースも少なくないようです。

「バイオガスプラント」は、家畜の排泄物である「牛糞」から発生するメタンガスを利用した、家庭用の簡易型ガス供給装置で、すべて人力で造る低コストの設備ですが、経済的にも貧しい農村地帯の生活者にとっては比較的導入し易い設備として、その需要が急激に増えています。

また、薪集めや炊事を担っている女性たちを重労働から解放し、健康被害を防止するために大変重要な役割を果しています。

「かんでん NGO ネットワークきょうと」は、活動開始して以来、今日まで、すでに数十基のプラント建設に携わってきましたが、今後の需要はまだまだ数多く存在している一方、その建設に必要な労働力は不足している実態にあります。

本稿タイトル横の写真は、完成したバイオガスプラントです。

活動実績

ネパール国内における「かんでん NGO ネットワークきょうと」の主な活動実績を、以下に紹介します。

・1999 年 6 月　植林活動（トッカ村）
・2000 年 5 月　植林活動（ピトゥリ村）
・2002 年 5 月　植林活動（ピトゥリ村）
・2004 年 6 月　植林活動（ピトゥリ村）
・2005 年 10 月　バイオガスプラント建設（チュニケル村）
・2006 年 10 月　バイオガスプラント建設（チュニケル村）
・2007 年 10 月　バイオガスプラント建設

（チュニケル村）
・2009 年 10 月　バイオガスプラント建設
（トゥクチャ村）
・2010 年 9 月　バイオガスプラント建設
（スダール村）
・2012 年 11 月　バイオガスプラント建設
（ピトゥリ村）
・2014 年 5 月　植林活動（ピトゥリ村）
・その他
国内の学校建設、飲料水用井戸建設に対する財政支援

活動の成果と今後の取り組み

活動に着手した当初は、自らの意思で参加を志願するボランティア（組合員）の確保に不自由はありませんでしたが、ハードな活動内容や、経済面で大きな負担がともなうことなどもあって、近年は参加者の募集に大変苦慮しています。

しかしながら、これまでの活動にボランティアとして参加した組合員は、実際に参加するまでは消極的であったものの、一つのワークを終え、目的を達成した後は、達成感や満足感に満ち溢れています。何よりも、支援を受けた現地の人びとが、涙ながらに、心の底から感謝の気持ちを示してくれた時には、参加したすべての組合員は非常に感慨を深くし、大変有意義であったと語ってくれます。

標高 1300 メートルの高さに国土を持つネパールは、昔も今も、アジア諸国の中でも貧困を極める国であり、実際に足を運んだ経験から、国民生活の豊かさは日本とは比べものにならない程の貧しさがあることを痛感します。

しかし、そこに暮らす人たちの眼は、純粋に輝き、素直で汚れのない、温かい心を持っています。

私たちは、地球環境保全活動を通じながら、人びとの生活と命を守るため、支援を必要とする現地のニーズや、組織の体力が続く限り、今後も継続的な活動を展開していきたいと考えています。